

2010 年 12 月 4 日 NGO 国際水銀シンポジウム 水俣病と世界の水銀問題

水銀：世界の問題と NGO の活動
ジョー・ディガンギ、IPEN

講演概要

水銀は金属として残留し、又は、主にメチル水銀として魚類中に生物蓄積し、環境中に広く存在する。多くの国では魚は重要な食物源であるが、それらは水銀汚染により脅かされるようになってきた。水銀は、石炭燃焼、採鉱活動、水銀含有製品と機器、製品製造現場、金属精錬とリサイクル、セメントキルン（焼成炉）、廃棄物投棄と焼却炉、汚染サイト、火葬場、その他の場所を含む多くの発生源から環境に放出されている。水銀曝露は、特に発達中の胎児、幼児、子ども、及び汚染された多くの魚を食べる集団、又は労働者として曝露する集団に深刻な影響を及ぼしてきた。水銀が長距離移動するということは、ある国や地域だけの活動では水銀から自分たちを守ることはできないということを意味する。水銀汚染は、連携のとれた世界的な行動が求められる世界の問題である。長年の討議や反対があった後、2009 年に世界のコミュニティーは、世界的な法的拘束力のある水銀条約の協議を開始することを決定した。この発表は、世界水銀条約への道筋、水銀管理の核心的要素、そして全ての人為的水銀発生源に目を向ける強い条約を推進するために、参加者が水銀曝露を身近なものとするよう、NGOs がどのような活動をしたかを述べる。